

コウノトリが舞い降りる地に！

●野田市から春日部麗しの杜・古利根川へ…！

今日は身近にあった素敵な話題を…。

* *

◆**コウノトリ** 【下野新聞「雷鳴抄」7月15日】
コウノトリが仲むつまじい夫婦に赤ん坊を運んでくる。ドイツ発祥と伝わる民話に出てくる鳥は、赤いくちばしのシュバシコウという種で、日本の特別天然記念物コウノトリとは別種だそうだ▼日本の野生のコウノトリは1971年に絶滅している。兵庫県豊岡市の保護増殖センターによる人工繁殖を経て、2005年から野生復帰のための放鳥が続けられている。翼を広げると2メートルにもなる大型の水鳥は今、自然再生の指標とされている▼栃木、埼玉、茨城、千葉県の自治体や民間団体、学識者らで組織する「関東エコロジカルネットワーク」は、関東広域でコウノトリ、トキの復活を掲げている。23日には千葉県野田市で放鳥が行われる▼里山や田んぼの生態系の頂点に立つコウノトリは、えさとなる多様な生物が生息する環境がないと生きられない。それは人間にとっても安全な環境を意味する▼渡良瀬遊水地はその候補地だ。国内で野外にいるコウノトリは80羽ほどだが、昨秋から2度飛来が目撃されている。ネットワークの一員である小山市は今月、営業用の人工巣塔を設置した。期待が膨らむ▼関東でコウノトリが絶滅したのは明治時代とされる。遊水地ができるきっかけとなった足尾鉍毒事件とほぼ時を同じくする。復活すれば、この上ない渡良瀬遊水地のシンボルとなる。

* *

こんなコラムを読んで、さっそく野田市のホームページを検索すると、コウノトリの写真と記事が…。



◆コウノトリの試験放鳥

市は国の特別天然記念物であるコウノトリの野外への放鳥について、平成27年度の試験放鳥を目指し、今年誕生したコウノトリを巣立ち後にそのまま放鳥するソフトリリースと、昨年誕生し飼育をしていたコウノトリに野外適応のための馴化訓練を行い、その後放鳥するハードリリースの2つの方法による実施の準備を進めてきました。

先日、文化財保護法に基づく法的な手続きが完了し、許可を得たことから、平成27年7月23日(木曜日)にソフトリリースによる試験放鳥を実施する予定です。

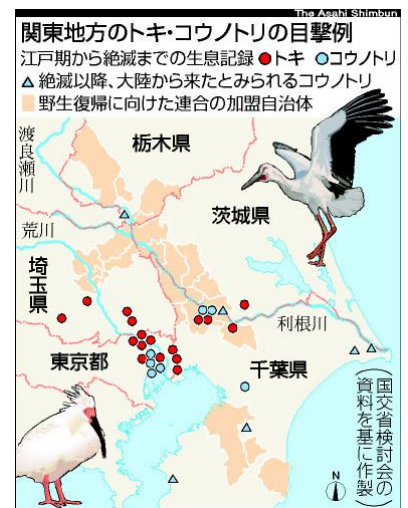
試験放鳥の期間については、当面平成27年から平成29年までの3年間を予定しており、個体モニタリングや環境への適応についての検証を行いながら、放鳥個体の定着を目指します。

【野田市公式HP、7月15日】

* *

5年前に、春日部地区浦高会創立10周年記念事業として始めた春日部市営川久保公園の一角をお借りした「春日部麗しの杜づくり」の植樹式の時に、会の副会長でもある根本崇・野田市長から…、

「野田市では江川地区で里山を残す『利根運河エコパーク構想』を進め、ピオトープ作りを続けています。ドジョウやカエルの泳ぐ水田、小川の復活が成果をあげており、3年後にはコウノトリの放鳥をしたいと考えています。▼周りの人達からはコウノトリを放鳥したら、何処かへ飛んで行ってしまふよ…とされているのですが、それで良いと考えています。コウノトリにとって大切なのは、冬場の餌の確保です。この古利根川は冬場になるとコウノトリが立てる程度の水嵩しかないため、この地域にコウノトリが飛んで来て餌をついばむことができるのではないかと考えています。この地域での杜づくりは大切だと考えております。▼ぜひ、皆さんと一緒にコウノトリが舞うような水辺の環境づくりを進めたいと思います。これからも、『春日部麗しの杜づくり』の活動が盛んになることをお祈りいたします。」とのご挨拶をいただきました。



その後、平成24年12月には多摩動物園から2羽のコウノトリを譲り受け、平成25年、26年と2羽ずつ4羽が誕生し、今年生まれた3羽を放鳥されることに…、計画的で行動派の根本市長さんらしいプランニングで有言実行されましたね。

今度は私たち春日部地区浦高会や春日部市民が、コウノトリたちを迎えることのできるような生物多様性に富んだ環境づくり、麗しの杜周辺の古利根川に小魚が棲める環境づくりを進めなくてはなりません。さて、今週末は「浦高百年の森」です。(^^)